

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

I 9月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	60	20
平年並	40	30	40
低い(少ない)	30	10	40

(平成24年8月24日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	27.9	30.7	25.8	257.7	193.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 9月の発生予報および防除上の注意事項

1 水稲(二期作)

- 移植期におけるスクミリングガイの防除対策
 - a 例年、本種の被害は二期作に多くみられる。
 - b 8月中旬の調査の結果、入水後の本田や用水路に卵塊がみられた。
 - c 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
 - d 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
 - e 本田での食害が集中する移植後2～3週間頃から浅水管理(1cm以下)に努め本種の活動を抑えるとともに、薬剤を施用する。
 - f 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
 - g 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。

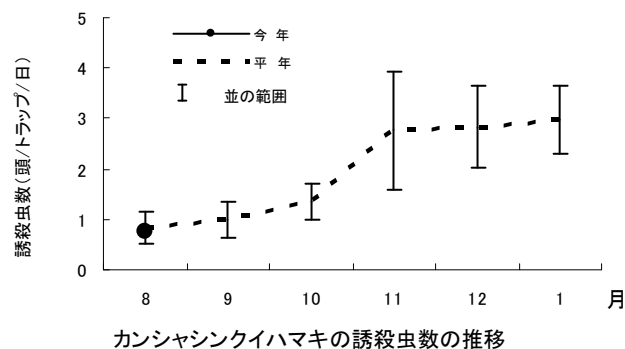
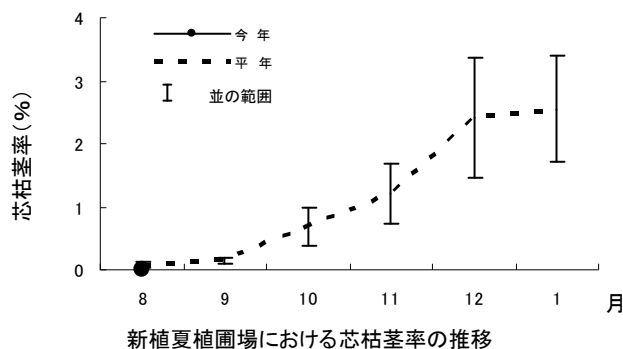
2 さとうきび

(1) カンシャシンクイハマキ

発生程度：並

a 8月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0%(平年0.1%未満)と平年よりやや少なかった。

b 8月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.7頭(前年0.3頭、平年0.8頭)と平年並であった。

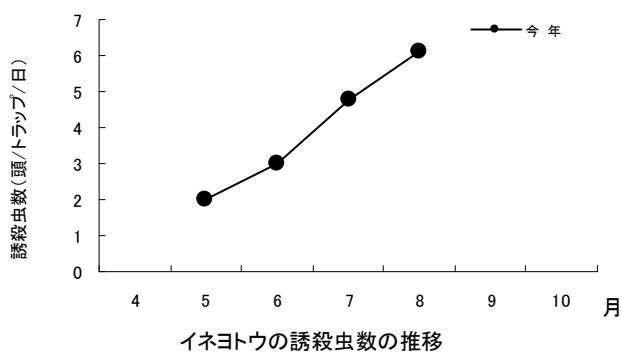


<防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号参照(9月発表予定)。

○ イネヨトウの防除対策

- 8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は6.1頭であった。
- 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



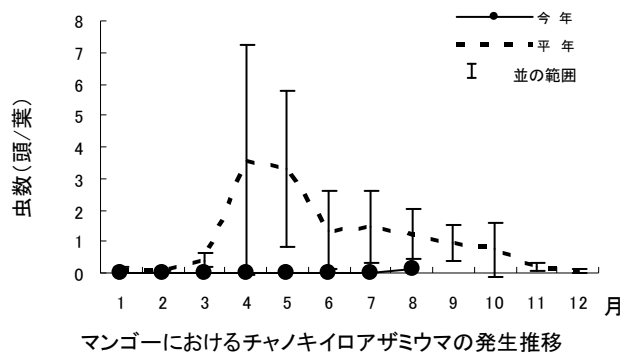
<防除上注意すべき事項>

カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。

3 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマ

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭(前年0.4頭、平年1.2頭)と平年よりやや少なかった。また、一部園地で多発生がみられた。



<防除上注意すべき事項>

- a 灌水を行う際、噴霧器などで本種を洗い流すように散水し、密度低減を図る。
- b 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

○ 枝枯細菌病・かいよう病の防除対策

- a 例年、枝枯細菌病は8月後半から発生がみられる。
- b 本病は折損等の傷から菌が侵入し発病することから防風対策を図る。
- c 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
- d 罹病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。